

寺
ごよみ

一月

- 一日 修正会
 三日 お寺の学校かるた会
 五日 栗虫本山助成会
 六日 栗虫報恩講
 七日 御正忌準備
 一二日 おけそくもみ

御正忌報恩講

- 一三日 昼一時 逮夜
 一四日 昼一時 逮夜
 一五日 十一時 下村お講
 昼一時 逮夜
 一六日 十一時 浦山・柄屋・熊
 野・大橋お講

布教 行信教授・大阪
 西光寺 天岸淨圓師

- 一二日 若婦人会花の会
 一七日 傑ぶ会お経会

寺報 善巧

発行
 〒938-0862 富山県
 下新川郡宇奈月町浦山497
 白雪山 善巧寺
 TEL (0765) 65-0055
 FAX (0765) 65-0975



谷口治夫氏撮影

いよいよと云うか、とうとうと云うか、今年は蓮如上人の五百回のご遠忌がきてしまった。

善巧寺にも新しい住職が誕生して、これから住職門信徒共に力を合わせて、善巧寺を本物の聞法の道場にする決意が必要である。

近頃はお寺参りの人
 が少なくなつたと云つたら、友人の歯医者が、「寺に参らなくとも、痛くも痒くもないからなあ」と云つた。

歯医者には痛くなると夜中でも患者が飛び込んでくるというのである。

現代人には、こころの痛みはないのだろうか。新興宗教の現世利益を求める人々は、後世はどうするのだろう。

阿弥陀さまは、私のことを罪悪深重の凡夫と診断して下さり、放つておくと必ず地獄に堕ちると云われている。

身内の不幸に遭つた人が、

あなたの往生は
 間違いないか

蓮如上人は『ご文章』

八十通の中に、今生のことより後生は解決してい

るのかと、四十二回も後生

の一大事について、繰り返し、繰り返し説かれている。

さて、貴方の往生は間違いないと云いきれるか。今年を機に、新住職と共に、命がけで聴聞して頂きたい。

行信教授校長

利井明弘師

弔問客にこう云つてゐるのを聞いた人は多いだろう。「生前はお世話になりました」

生前とは何時のことだろ
 う。生まれる前は少しおかしくないだろうか。死ぬ前はお世話になりました、と云うのなら判るのだが。実は、この言葉は「往生する前」という意味なのである。

だから、お浄土に往生された人にはこの言葉は使えるが、死んだ後は、往く先が判らない人には、適当な言葉ではないのである。

蓮如上人は『ご文章』

法要前日

11/1

法要を前におけぞく
づくりに精を出す
お世話方



前夜祭大入御礼

11/2
夜

雪ん子劇団手話ミュージカル
「うちのとうちゃんえらいんだ」
雪ん子シニアミュージカル
「桃次郎の冒険」



前夜祭祝賀パーティ

11/2
夜



行信教校の学生によるお勤め

若々しい読経の声 本堂に響く

11/3



見つめよう

生かされているこのいのち

見つめよう

あらゆる人々と共に生きているということ

お寺は心のふるさとです



住職継職。随分とたいそうなことをするように聞こえるが、僕にとっては誕生日のような思いがある。僕が築き上げてきたもので継職するわけでもなく、勝ち取ったとかいうものでもない。たまたまお寺に生まれて、たまたまそこの長男で、その他様々なご縁によって、住職を継職させてもらうことになった。もちろんそれに反発を感じたこともあった。でも、今僕は、お寺に生まれて本当によかったと思っている。僕のような鈍感な人間はやっぱりどのご縁がない限り、「生きる、死ぬ」ということを見つめる機会はないだろう。それが、たまたま浄土真宗という教えにあわせてもらったおかげで、「生死」を見つめていく教えにずっとあっていける。

見た目も中身も子供のような僕ですが皆様に育てられながら、共に何かを感じて生きたい、生かさせてもらいたい、そう思っています。

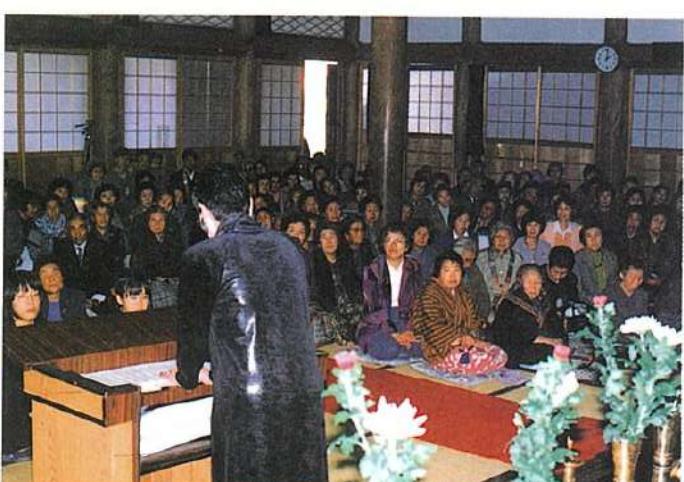
今日、平成9年11月3日、雪山俊隆が善巧寺の住職を継職させていただくことを、仏前にて奉告いたします。

新住職 雪山俊隆



善巧寺第二十一世住職
継職奉告法要勤修

11/3





高田慈昭先生 講話より

つ、この若い新しい住職を盛り立てて、守つていって頂きたいと思います。

俊隆さんがこうして住職になられましたが、「住職」というのは、これは住持の職分という意味でございます。そして、天親菩薩の浄土論に「正覺阿弥陀 法王善住持」という言葉がございます。安樂淨土は阿弥陀仏の善住持力のためによく住持せらるるという意味です。「住持」ということは、これは「住」という字が書いてあります。ですが、これはただそこに住んでいるということじやないのであります。佛典には「住」というのは、「不異不滅」変わらない・滅びない、とあります。また、「住持」の「持」というのは、「不散不失」念持して失わない、ここに深く念じてこれを失わないということです。つまり、「住持職」というのは、佛法を、淨土真宗で言えば本願念佛の法、この法を中心としつかりと法をたもつ

く。その法が伝わっていく場所である道場がお寺であります。その中心はご本尊であります。ご本尊の阿弥陀如来、この阿弥陀如来の教法をしっかりとたもつて、世の中がどんなに変わつても、人生がどのように変わつていつても、御門徒・同行の方々と一緒に手をたずさえて、この教法を守りつづけていくということが、「住持」ということです。したがいまして、このお寺、この建物の中に生きておる南無阿弥陀仏の教法、本願念佛の法というものが、これが住職である僧侶と、またこのお寺を支えておられる門信徒の方々とが、この法の中に一体になつて、いつもまでもいつまでもこのお寺を護持し守つてゆく、そして教法を守りつづけていくことが「住職」という意味になります。



浜 美枝さん
講演より

うか。あせりにも似た気持ちでずっと考えてきましたが、ふと私なりに答えを見つけました。それは、この日本という国が五十年の間に捨て去ってきたものの中にあるのではないかと思いました。この五十年間、父や祖父の世代の方々が死に物狂いで働いてくださったおかげで、今日の繁栄があると思います。しかし人間は物とお金を得ただけでは幸せにはなれないということに気付いたんだと思うんですね。（中略）私が十四歳の時に出会った民芸研究家の柳宗悦さんの本の中の「ものを作る人に美しいものを作らせ、ものを使う人に美しいものを選ばせ、この世を美の国、淨土の国にしよう」という呼び掛けが、今こそ大きな意味をもつてゐるのではないかと思います。次代にぜひ伝えていきたいこと、それは心がほつとするしみじみと「ああ幸せだ」と思えることなのでないかと思います。





皆様ようこそ。僕が新住職となる雪山俊隆です。今日初めて見る方もおられるでしようが、どうですか？（笑い）法事にお参りに行つても、もの珍しそうに見られるんですよ。僕は今年の四月からここに帰つてきて、それまでは八年間関西の方で生活していました。今日は、善巧寺にご縁のある方が寺をお祝いに来てくれたり、僕を個人的に見にきてくれたり、あと、なんとなく来ちゃつたり、いろんな方がおられます。（問）僕は自分の思いをはつきり表現出来ないんで、皆さんに配つたしおりに少し書かせていいただいたんですけども、文章にしても誤解されるようなものを書いたら、まだ若いん



住職挨拶

です。（笑い）皆さんは僕の父の事をよくご存じだと思いますが、僕はやっぱり父の後をしっかりと継いでこのお寺やつていきたいんです。父はお寺は文化の発祥地だとよく言つていましたやつぱり本堂の広さというのはこうやって集まるためにあるわけでしょう。けど近頃はなかなか集まらなくなってきたじやないですかな。昨日の前夜祭として雪ん子劇団の公演をやらせていただきましたが、この寺は劇団があつたり、落語の会や、音楽会、浜美枝さんがきたり……お寺のあり方というのはいろんなやり方があると思うんです。「なに調子のつとらけ」って言う人のいるかもしませんが、やっぱりお寺は開かれた所でありたい。集まつた方と一緒に何かを感じていただきたい。僕一人でやる気になつてもね……。最近、訪問販売の人、がうちに来て、「ご住職はおられますか?」って僕は聞くんです。（笑）「今ちよつ

と出かけていて」（笑）つ
て、僕はそれぐらい自覚が
まだないんですが、こうやつ
て集まつた皆さんと、一縷
にお寺を盛り上げていけな
らありがたいなあ、と思ひ
つつ、まとまりませんが、
挨拶に代えさせて頂きます。
今日はどうもありがとう、
ざいました。



鬼原総代 挿 捜

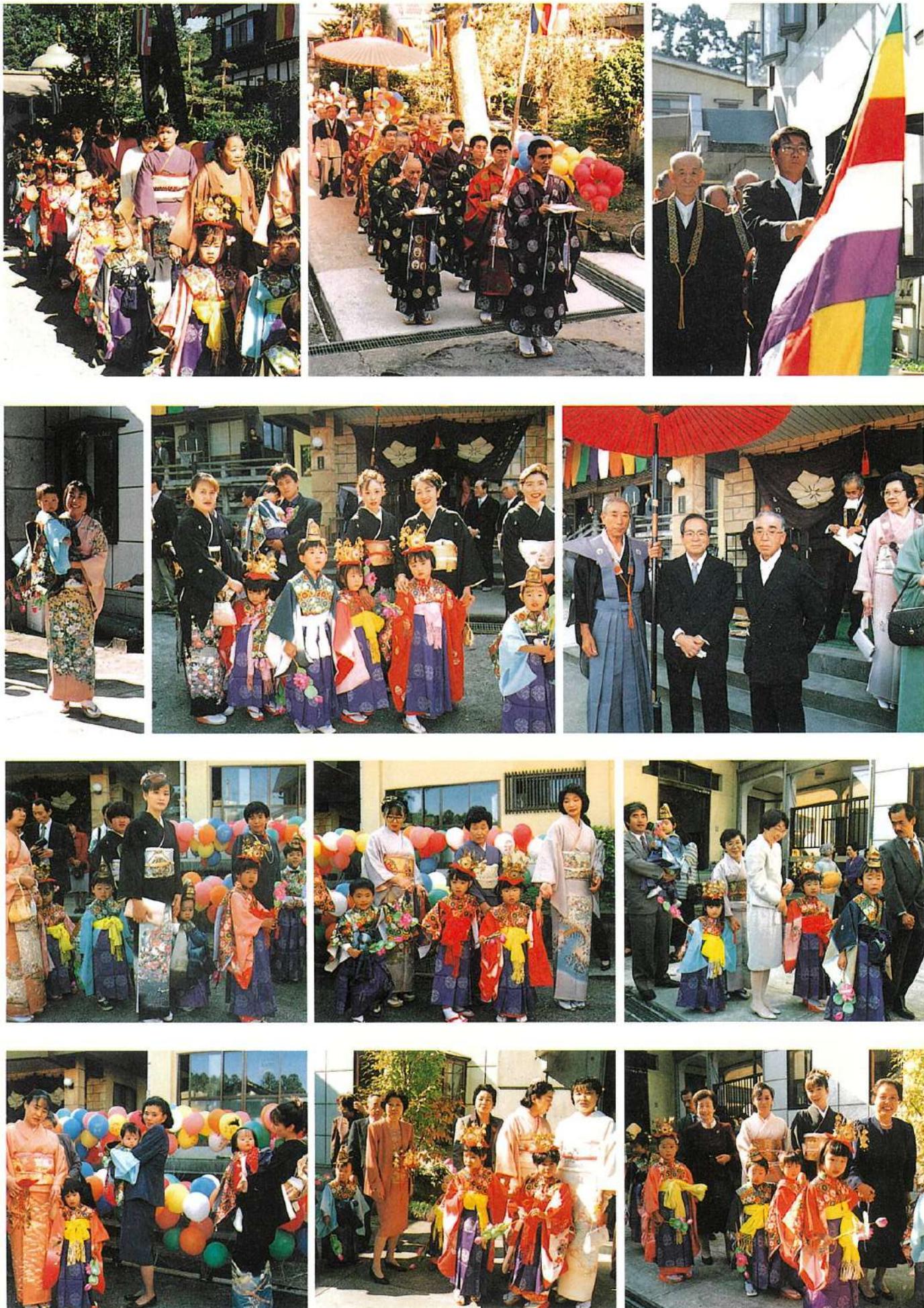
ただ今無事に俊隆さんの住職としての奉告法要が終わりました。本当に嬉しいことでござります。八年前に若はんが亡くなられ、そして前々ご住職が病の床に伏されました時には、私はやつていけるのだろうかと思いました。本当に胸のつぶれるような感じがしておったのであります。残された坊守と遺児たちの懸命な努力、そして法輪寺さん照行寺さんのお助けをい

ただいて、どうにか今日まで法灯を継いでまいりました。けれどもその間は住職不在の寺であったのでござります。皆さん喜んでください。今度新住職になられたわけ修業を終えられ研鑽の結果さい。今の若さんが八年のでございます。

去る六月十八日に京都のご本山でご門主さまから直接、善巧寺の住職になれよというご任命をいただきました。私も同行させていただきました。その折にご門主さまのお言葉がございました。寺は門徒あつての寺である。門徒にとつては寺あつての門徒である。寺のお守りをする住職と門徒とは、寺を支える二つの柱である。一緒に法を守れよというお話でございました。

また松村総長は、実を言うと住職というものは大変な仕事だよ。一生懸命になつてもらいたい。えらいお坊さんになる必要はない。それよりも門徒と話のできる住職になつてくれと言われ

ました。本当にそうだと思いました。住職も私たちも等しく親鸞さまのお弟子で、あつたという思いを強くしたのであります。皆さんに一つお願ひしたいと思います。今日家に帰られましたら若い息子たちに孫たちに、一年でいつでもいいから寺に行ってくれよと、あれはいいごんげさんじやぞと言つていただきたいのです。「じんげさん」というとかにもいかめしい感じですが、「若さん」でも「俊隆さん」でも「俊隆くん」でもいいんですよ。そうして若い方たちに来ていただきて、婆婆の話、これから的人生を語つていただきたい。そして自由に青春を語り謡歌してもらいたい。仏法の場で若い住職と話をすること、必ず心の琴線に触れる何かがある、将来の自分の道が見つかるのだと思います。住職と一緒に遊んでいただきたいと思うのです。今日は本当にありがとうございました。





おつかれさまでした



二八日	二六日	二四日	二〇日	一九日	一八日	一七日	一六日	一五日	一四日	一三日	一二日	一一日
雪ん子砺波公演	恩講	舟見報恩講	下立報恩講	偲ぶ会お経会	生地・荻生報恩講	浦山お講	三日市報恩講	七~二日	二日	三日	四~一日	寺 ごよみ

寺
ごよみ
二月

続職法要も無事にとり行
われ、ほつとして迎えた翌

善巧寺ゴルフ大会 11/4



四日、まさにゴルフ日和の
秋空の下、善巧寺門信徒第
二回高田杯ゴルフ大会が、
棚山ゴルフ倶楽部で行われ
ました。

「何事もこだわりを捨て
力がないことが大切」と仰
る高田先生のお言葉通り
だつたのかどうか、下村の
新保満夫さんが優勝カップ
を手にしました。(以下敬称略)
優勝 新保満夫



二九日	二八日	二七日	二六日	二五日	二四日	二三日	二二日	二一日	二〇日	一九日	一八日	一七日	一六日	一五日	一四日	一三日	一二日	一一日
雪ん子春の公演	入善・八幡・泊報	舟見報恩講	下立報恩講	偲ぶ会お経会	生地・荻生報恩講	浦山お講	三日市報恩講	七~二日	二日	三日	四~一日	寺 ごよみ						

寺
ごよみ
三月

(次頁五十回忌の続き)

男(5・30)川瀬幸吉(妻6・3)佐々
木三次郎(娘6・7)柄沢茂(母6・
12)丸田永次郎(7・18)島田丈久
(父7・21)飛田岩次郎(8・11)佐々
木与作(母8・13)野崎慶三(長女8・
19)野崎重次郎(妻8・25)佐々木甚
八(長男9・14)佐々木道義(父9・
22)二口安次郎(10・12)佐々木虎松
(母10・17)鬼原勇作(三男10・17)岩
上太平(妻11・3)谷口五左衛門(長
男11・8)橋用次郎(11・20)鴨田安
次(妻11・22)丸田久次郎(11・30)島
田浅次郎(三女12・6)佐々木次盛
(母12・6)佐々木市太郎(母12・7)島
田浅次郎(三女12・6)佐々木次盛
(母12・6)佐々木市太郎(母12・7)



二位 國香正了(飛人ゲスト)
三位 山内幸男
ドーロン賞 朝倉 隆俊
ニアピン賞 佐々木哲哉
川内 一美
ブービー賞 善積 辰也



*十五日お初夜には古いろうそくを
本堂前に灯しましよう。

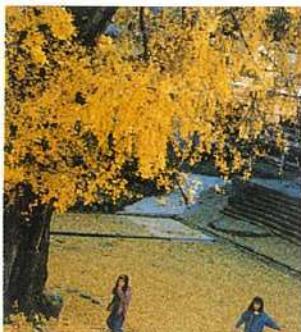
御正忌報恩講は宗祖親鸞聖人の祥月法要です。聖人の遺徳を偲びつづご恩に報謝するもので、真宗門徒にとつて最も大切な行事です。

御正忌報恩講

一月十三日	昼一時	逮夜
十四日	昼一時	逮夜
十五日	十一時	下村お講
十六日	七時半	逮夜
昼一時	初夜	
十一時	浦山・柄屋・熊野・大橋お講	
滿座		
天岸淨圓師		

善巧寺年中行事

春の公演	三月二十九日
太子会	四月十一日
初参式	四月二十六日
落語会	六月九日
祠堂会	七月十六日
盆踊り	八月十五日
夏の公演	八月二十九日
報恩講	十月十九日
空華忌	十一月五日ごろ
除夜会	十二月三十一日



う。 ほんこさんには赤いろうそく、お花、お香をお忘れなく。お仏壇の中に、お札あだあみだ様、親鸞聖人、蓮如上人とすつきり整えましょ

のお札とお詫びを申し上げます。

行信教校校長が叱咤激励して下さるように、本物の聞法の道場であるべく努力を門信徒の皆様と共に進めていく所存です。

まず今年のはじめは、天岸先生のお話を心ひきしめてお聴聞いたしましよう。

今年度の門徒報恩講は、
昨年十月から今年の三月半
ばまで続きます。今回は善
巧寺から新住職がお伺いし
ています。はじめてお訪ね
する家が多いのですが、父
の残してくれた現在帳を手
に大先輩高島さんの後をつ
いています。

三月末から七カ月余にわたりました。たつて準備を進めてきた住職継職奉告法要も無事に終わりました。実行委員の皆様、お世話いただいた皆様、当日おまいりいただいた皆



御札

合掌